



# 万国外科学会(ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行: 万国外科学会(ISS/SIC)日本支部  
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35  
慶應義塾大学医学部外科学教室  
TEL: 03-5363-3802 FAX: 03-3355-4707  
発行者: 北川雄光  
編集責任: 万国外科学会(ISS/SIC)日本支部事務局長  
和田則仁(慶應義塾大学医学部外科学教室)  
印 刷: 株式会社 dig TEL: 03-3551-3060  
年2回発行 1995年4月創刊

## ISS/SIC 2011 in Yokohama の開催をめざして

Past President, ISS/SIC  
Congress President, ISW2007  
慶應義塾大学名誉教授  
国際医療福祉大学学長

**北島 政樹**



平成21年9月5日より5日間に亘り、第43回万国外科学会がAustraliaのAdelaideで開催されてから早や6ヶ月が経過しました。いよいよ来年2011年8月28日より9月1日まで横浜に於いて第44回万国外科学会が開催されます。

今回、ISW2011として特筆すべき点は、国際消化器外科学会(ISDS)がIntegrated Societyとなり、IAES(Endocrine)、IATSIC(Trauma and Intensive Care)、IASMEN(Metabolism Nutrition)、BSI(Breast)など5学会となります。ISDSでは香港にあったCentral Officeがスイスの本部へ移動し、学会員のリストや学会の収支などすべて扱うこととなりました。

さて、ISW2011の陣容をみてみると Congress President: Ken Boffard(South Africa)であり、Vice Presidentは驚いた事に6人が人選されており、“船頭多くして船山に上る”にならなければ良いがと危惧を抱いた次第です。もちろん小生が推薦したAkimasa Nakao(Japan)とChung-Mau Lo(China)は含まれています。

LOCはHonorary President: Masaki Kitajima、President: Masahiko Watanabe(Kitasato U)、Vice President: Seigo Kitano(Oita U)、Secretary General/Representative, Japan Chapter: Yuko Kitagawa(Keio U)でとにかく学会の成功に向けて一丸となり準備しようと考えております。

## 万国外科学会 2011 (International Surgical Week 2011) 開催に向けて

ISS/SIC Councilor  
帝京大学医学部名誉教授

**山川 達郎**



ISW2011は、South AfricaのProfessor Ken D. Boffardと北里大学 渡辺昌彦教授をそれぞれ会長ならびにLocal Organizing Committee(LOC)の会長として、いよいよ2011年8月28日から9月1日にかけて横浜において開催される。

1905年、Professor T. Kocherを会長として、BelgiumのBrusselsで第1回ISWが開催されてから、実に106年が経過している。その間、ISWは、第一次、第二次世界大戦により開催されなかった時期があったので、今回のISW2011は、その第44回目に当たる。日本での開催は、故斎藤滉日本医科大学名誉教授がLOCの会長として、京都で開催されたISW1977以来のことである。1995年から2年間、ISS/SIC会長を務められた出月康夫東京大学名誉教授の時代、ISS/SIC日本支部はISW招致運動を始めたが、その頃のことを思い浮かべると、感慨無量なものがある。この貴重な機会に巡り合えるのは、出月康夫教授ならびに北島政樹 前ISS/SIC会長をはじめ石川浩一 東京大学名誉教授、阿部令彦 慶應大学名誉教授、比企能樹 北里大学名誉教授、野口志郎

これらのスタッフにより3月18日～20日の3日間、Executive and Program Committee MeetingがFrankfurtで開催される予定ですが、世界のあらゆる場所からのアクセスが良好である事と飛行機の便数も多く便利であるということによりFrankfurtに決定いたしました。

3月のExecutive Committee Meetingの前にLOCには大変な努力が強いられました。すなわちISW2011を開催するにあたり、2009年9月のAdelaide大会の打ち合わせに於いてAgreementの素案がISS/SIC側より提案され、10月末日を最初の期限とし、内容の合意と確認を求めてきました。しかし、ISS/SIC本部からの予算としての要求額が従来の学会に比べて余りにも高額であり、その経費はプログラム関係費用、各Integrated Societyの負担費およびISS/SICの事務経費であり、その詳細は示されておりませんでした。そこで今回、学術会議の後援による公的資金の導入等がある為に双方が明確でなければ合意出来ない旨、何度かやり取りがありました。国際弁護士の外立憲治先生以下外立法律事務所スタッフに依頼し、LOCメンバーと議論した後に、再度要望を伝えました。ISS/SIC側も弁護士をたてており外立弁護士と交渉していただきましたが、ISS/SICから新たな要望が加わるなど、暗礁に乗り上げた感覚をいたしました。11月より1月まで4ヶ月間に7回以上のやり取りがあり、最終的には小生がKen Boffard会長と本音を話し合い、日本の今までの学会運営の豊富な経験と真摯な態度を会長も理解してくれ、LOCの要望に納得し、2月にやっと合意に達しました。これでExecutive Committee Meetingで堂々と話し合うことも出来、またすでにプログラムに関してはProgram DirectorのChris StorzとIntegrated Societyとのやり取りが行われており、着々とISW2011の準備が進行しております。最後に、PCOの努力によりホームページ(<http://www.isw2011.org/index.html>)がオープンし、またファーストセキュラーに続いて広報用のチラシが完成した事を会員の皆様にご報告申し上げます。

IAES(Endocrine Surgery)元会長、故岡田正 大阪大学名誉教授IASMEN(Surgical Nutrition, Metabolism)など多くの先達者の卓越したリーダーシップとお力添えの賜物であることは言を俟たないところであります、ご尽力くださいました諸先輩に心より感謝申し上げる次第である。

ISWの伝統は、ISS/SICとLOCが、Integrated SocietyのISDS(GI Surgery)、IAES、IASTIC(Trauma Surgery)、IASMENならびにBSI(Breast Surgery)と協調しながら、さらに開催国の諸学会やIFSESをはじめとする国際的なparticipating Societyとも連携してJoint Symposiumを組み、外科全般にわたる総合的なプログラムが構成されてきたことである。今回も、その骨組みは変わらないが、ISS/SICは、AustraliaならびにNew Zealandの国内参加者も少なかったことに起因するISW2009学会の低調さを反省して、主催国の参加者を増加するためにも、主催国の案を重視してプログラムを組んでくれるものと考えられる。すでに渡辺昌彦LOC会長は、前回の支部会で、その意気込みを述べられたが、Integrated SocietyやParticipating Societyから提出されるSymposiumのテーマを日本のプログラム案とし合わせながら、より幅広い視野に立ったプログラムが構築されることを期待してやまない。したがって今回のISW2011は、日本支部会員にとって、本邦の高いレベルの外科学の現状を世界に示す絶好の機会と言ふことができよう。

ISW2011の成功は、実に、日本支部会員の双肩にかかるといつても過言ではない。会員の諸兄には、できるだけ多くの演題を提出していただき、外国からの参加者との議論を通じて、堅い国際的な友好関係を築いて行っていただきたいと期待している。

皆さまのご協力に心より感謝します。

## ISW2011開催に向けて LOCからの報告です

President, ISW 2011 LOC  
北里大学医学部外科学教授

**渡邊 昌彦**



私はISW2011のLOCの会長を拝命して以来、ISS日本支部ニュースに毎回登場させていただくことになりました。そこで今回は2011の進捗状況についてお知らせいたします。

本学会は当番会長が全てお世話するのではなく、integrated societyが各々独自のプログラムを作成しそれらを本部がまとめます。したがって、シンポやパネルなどの司会や演者は全て各学会によって指定されます。ただし今回はこれまでの学会と異なり、対応する国内学会と連絡を密に取り合っていただきながらプログラムの作成に当たっています。すなわちISS-日本外科学会、IAES-内分泌外科学会、IATISIC、ISBI-救急医学会、BSI-乳がん学会、WOFAPS-小児外科学会など対応する日本の学会とintegrated societyがジョイント・シンポを企画しております。またシンポやパネルの司会や演者には、出来る限り日本支部のメンバーを参画させていただくよう働きかけております。EAESは独自に参加する予定ですが、これを機会にIFSESのもとにJSESやELSAの合同のシンポを企画しようと考えています。ISDSとIASMENは各日本支部が中心的な役割を果たしていきますが、日本消化器外科学会や日本外科代謝栄養学会と

の連携も考えております。このような全ての学会と合同シンポを企画することを通じて、我が国の各々の分野の外科医が海外の外科医と親交を尚一層深めていくことを切望してやみません。

今回から新たに参加するAWS（Association of Women Surgeon）は日本女性外科医会と合同セッションを組む予定です。その他にAPIMSF（The Ambroise Pare International Military Surgeon Forum）と防衛省、WFVS（The World Federation of Vascular Society）と日本血管外科学会の橋渡しも我々の仕事であります。これらの学会は日本ではなじみの薄い学会ではありますが、これを機会に海外との交流を始めることができると期待されます。教室では各々に担当を配置して、綿密なプログラムの構成を目指しております。このように学術的に幅広い分野を網羅し、全ての外科医が興味をもてるISWに近づけていきたいものです。幸い多くの学会がプログラムの骨子を完成しており、3月18日からフランクフルトで開催される理事会におきまして詳細に話し合われます。その場では、LOCとしてもプログラムの作成に積極的に関与し、本学会における我が国の立ち位置をさらに高めていきたいと考えています。

先月、会長一スイス本部一日本支部一LOCの間で細かい覚書が交わされました。その結果、LOCが学会会場費をはじめとして一切の費用を賄い、さらに理事会費用、プログラム作成費、各学会への配当金など合計約3700万円をISSのスイス本部に支払うよう求められました。すなわち、他の学会と金銭の流れが全く異なることも会員の皆様に知っておいていただきたいと思います。もちろん会長からは一切の資金的な援助はなく、収入の殆どは参加費と企業の援助に頼るのが現状です。ご存じの通り経済状況が低迷している昨今ではありますゆえ、会員の先生方をはじめとして関係の先生方の一人でも多くのご参加を期待しております。

## ISW2011への国際消化器外科学会（ISDS）の参画

Councilor, ISDS  
岩手医科大学医学部外科学教授

**若林 剛**



Adelaideでの第43回万国外科学会では、国際消化器外科学会（International Society for Digestive Surgery）の今後の在り方を議論するために理事会が開催された（本ニュース第29号参照）。一昨年、北京での急な中止を余儀なくされた国際消化器外科学会の立て直しを期待され、北島政樹学長（国際医療福祉大学）が会長に選任された。日本からは名誉顧問として跡見裕学長（杏林大学）、そして理事として北野正剛教授（大分大学第一外科）と私が任命され、国際消化器外科学会の発展の為に北島政樹会長を助けることになった。

国際消化器外科学会は1969年に設立されThe Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae (CICD)としてISS/SICの一つの分派として組織された。第1回の総会は1971年にSan Remoで開催され27カ国から800名以上の消化器外科医が参加したとされる。その後は、ISS/SICと交互に開催されることになり2年おきの偶数年に総会が行なわれてきた。1998年に開催されたMadridの総会でCICDの名称はISDSと変更され、21世紀へ向けて国際的な消化器外科学会として広く知られるようになった。私が初めて参加したのは2004年に嶋田紘会長（横浜市立大学第二外科）が横浜で主催した第19回総会からであったが、プログラムも非常に教育的で多くの著明な国際的消化器外科医が参加したすばらしい総会であった。続いて2006年はRomaで第20回総会が開催され、私は岩手医大外科の教室員を多数引き連れRomaの街を散策したことをつい日のことのように覚えている（写真）。しかし、ご存知のように2008年に北京

で予定されていた第21回総会は世界的金融危機の影響を受け、急遽キャンセルされた。それまでISS/SICとISDSは奇数年と偶数年に交互に行なわれてきていた訳であるが、第21回国際消化器外科学会は2009年にAdelaideで開催されたISS/SICにpartner societyとして参加するにいたった。今後は引き続き、ISDSはISS/SICのintegrated societyとして奇数年に開催されるISWに参画することになっている。したがって、ISW2011 in YokohamaがISDSにとっても最初のintegrated societyとしての参画となる。

昨年10月の第95回米国外科学会臨床総会時に行なわれた国際消化器外科学会理事会では、ISDSがISS/SICのintegrated societyになることに伴う事務手続きや将来の方向性などについて議論された。米国のDDWで米国消化器外科学会（SSAT）とISDSのjoint symposiumを企画し、日本消化器外科学会でもISDS共催シンポジウムなどを将来的に計画する方針が決められた。北島政樹会長の強力なリーダーシップで国際消化器外科学会が益々発展するよう、微力ながら貢献したいと思っている。



**会員動向**

(2010年3月15日現在)

**会員数 282名**

内訳 アクティブメンバー 249名  
 シニアメンバー 30名  
 名誉メンバー 3名

**支部活動報告**

(2009年1月～12月)

2009.3.16 万国外科学会スイス本部へ寄付 (EUR 1,300.00)  
 2009.3.20 万国外科学会(ISS/SIC)日本支部ニュース第28号発行  
 2009.4.4 第27回万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会(於:福岡 福岡サンパレス)  
 2009.11.20 万国外科学会(ISS/SIC)日本支部ニュース第29号発行  
 2009.11.21 第28回万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会(於:京都 京都国際会館)

**Exploring the Future of Surgery****INTERNATIONAL SURGICAL WEEK**

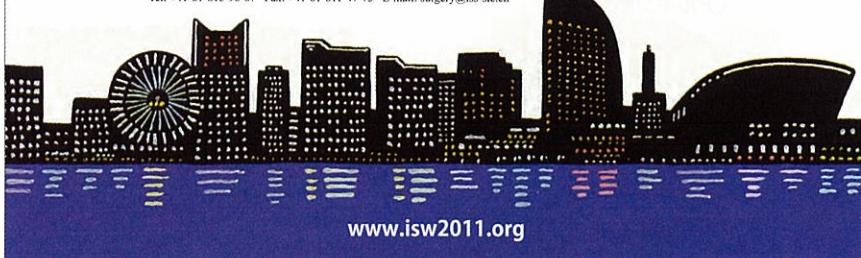
**August 28 → September 1, 2011**  
**Pacifico Yokohama, Japan**

Congress President: KENNETH D. BOFFARD, South Africa

President of the Local Organizing Committee ISW2011: MASAHIKO WATANABE, Japan

Congress Secretariat:  
 Department of Surgery, Kitasato University 2-1-1, Asamimadai, Sagamiharashi, Minamiku, Kanagawa 252-0380 Japan  
 Tel: +81-42-748-9111 Fax: +81-42-745-5582 E-mail: isw2011@kitasato-u.ac.jp

Scientific Secretariat ISW2011(for all scientific works):  
 c/o ISS/SIC  
 Schlierenstrasse 16, CH-4419 Lupsingen, Switzerland  
 Tel: +41-61-815-96-67 Fax: +41-61-811-47-75 E-mail: surgery@iss-sic.ch



**デュロテップ® MTパッチ**

デュロテップ MTパッチ  
16.8mg (100μg/hr)

デュロテップ MTパッチ  
12.6mg (75μg/hr)

デュロテップ MTパッチ  
8.4mg (50μg/hr)

デュロテップ MTパッチ  
4.2mg (25μg/hr)

デュロテップ MTパッチ  
2.1mg (12.5μg/hr)

厚さ大ではありません

経皮吸収型 持続性疼痛治療剤  
**デュロテップ® MT** パッチ  
Durotеп. MT Patch 一般名: フェンタニル 薬価基準収載

\*注意 - 医師等の処方せんにより使用すること  
 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

2010年3月作成

製造販売元(資料請求先)  
**ヤンセン ファーマ株式会社**  
 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2  
 URL: http://www.janssen.co.jp

**2010年 予算案 (2010年1月1日～12月31日) ISS/SIC**

日本円の部 営業単位: 円

収入の部	予算額	備考
ユーロから預替	1,000,000	ユーロ預金から預替
広告掲載料	700,000	
寄付	200,000	
雑収入	0	
利息	0	
当期合計	1,900,000	
前年繰越金	2,019,992	
収入合計	3,919,992	
支出の部		
会議費	450,000	総会2回分
通信費	200,000	
印刷費	470,000	ニュースレター2回発行分
文具費	50,000	
交通費	100,000	
人件費	520,000	
雜費	10,000	
予備費	100,000	
支出合計	1,900,000	
収支残高 (2011年繰越金)	2,019,992	

ユーロの部 営業単位: ユーロ

収入の部	予算額	備考
会費	9,100.00	
利息	0	
繰越金	7,301.38	
収入合計	16,401.38	
支出の部		
日本円へ預替	8,000.00	1ユーロ=125円として1,000,000円
スイス本部寄付	1,300.00	2010年分
支出合計	9,300.00	
2011年繰越金	7,101.38	

**2009 収支決算書.doc 2009年 決算 (2009年1月1日～12月31日) ISS/SIC**

日本円の部 営業単位: 円

I 収入の部	予算額	決算額	備考
会費 (ユーロから預替)	1,000,000	1,040,480	ユーロ預金から預替 (EUR 8,000.00)
広告掲載料	500,000	550,000	
寄付	400,000	0	
雑収入	0	0	
利息	0	1,339	
当期合計	1,900,000	1,591,819	
前年繰越金	2,058,655	2,058,655	
収入合計	3,958,655	3,650,474	
II 支出の部			
会 費	400,000	414,666	総会2回分
通 信 費	200,000	129,554	
印 刷 費	470,000	452,130	
文 具 費	50,000	42,924	
交 通 費	150,000	142,510	
人 件 費	520,000	358,000	
雜 費	10,000	2,950	
予 備 費	100,000	87,748	スイス本部 Mr. Bertchi の視察費用
支 出 合 計	1,900,000	1,630,482	
収 支 残 高	2,058,655	2,019,992	(2010年 繰越金)

ユーロの部 営業単位: ユーロ

収入の部	予算額	決算額	備考
会費	9,000.00	9,100.80	
利息	0	12.50	
繰越金	7,488.08	7,488.08	
収入合計	16,488.08	16,601.38	
支出の部			
日本円へ預替	8,000.00	8,000.00	
スイス本部寄付	1,300.00	1,300.00	
支出合計	9,300.00	9,300.00	
収支残高	7,188.08	7,301.38	

残高 日本円 2,019,992円 (通帳残高 1,985,293円 + 現金 34,699円)

ユーロ 7,301.38 ユーロ (通帳残高 7,301.38 ユーロ)

ISS/SIC 万国外科学会 日本支部

2010年3月19日 監事 中雅大  
 2010年3月24日 監事 田尻孝



**第28回万国外科学会  
(ISS/SIC)日本支部総会  
第2回ISW2011組織委員会  
議事録**

2009年11月21日土曜日 午前7:00~8:00  
於：京都国際会議場

出席者：愛甲 孝、池田 正、井本 滋、岩中 睦、臼杵 尚志、宇山 一朗、海野 倫明、遠藤 格、  
大坪 究人、大柳 治正、岡 正朗、小澤 壮治、掛川 吉弘、掛川 夏也、金子 弘真、  
加納 宣康、亀岡 信悟、北川 博昭、北川 雄光、北島 政樹、北野 正剛、木村 理、桑野 博行、  
小谷 稔治、後藤 満一、小西 敏郎、近藤 哲、今野 弘之、佐藤 武郎、嶋田 紘、嶋田 裕、  
清水 一雄、杉原 健一、高見 博、田尻 孝、田中 淳一、谷川 允彦、丹黒 章、戸井 雅和、  
中尾 昭公、中村 清吾、梨本 篤、馬場 秀夫、比企 直樹、比企 能樹、平井 一郎、平山 廉三、  
前田耕太郎、幕内 博康、松原 久裕、真船 健一、水本 龍二、宮澤 光男、宮島 伸宜、矢永 勝彦、  
山川 達郎、山下 浩二、山名 秀明、山本 雄造、若林 剛、和田 仁、和田 則仁、渡邊 昌彦

(敬称略；五十音順) (事務局：和田、白神)

1. 開会の挨拶：北川雄光日本支部長

2. 前回議事録確認

3. Integrated Societyについて：北島政樹元会長

ISDSはアデレード大会ではPartner Societyとして参加したが、ISW2011からはIntegrated Societyとなることがアデレードでの理事会で決まった。財政的な面は今後決めていく。ISDSは、日本消化器外科学会、米国のSSAT(Society for Surgery of the Alimentary Tract)などとコラボレーションすることでISDSの特殊性を出すとともに、ISWのプログラム作成に関わることになる。

4. 機関紙 World Journal of Surgeryについて：北島政樹元会長

John G. Hunter先生の努力によりIFが2.64と上がってきた。日本からの投稿数も増えた。日本から国立がんセンターの片井均先生がassociate editorに承認された。

5. ISW2011について：渡邊昌彦LOC会長

アデレードでのISW2009は1,484名の参加があった。現地での会議で、南アフリカのKenneth D. Boffard先生を会長として2011年の横浜での開催が正式に決まった。展示会場にISW2011の紹介のブースを設けて宣伝した。ポスター、パンフレットを作成したので利用して欲しい。富士山とペアンのロゴはイラストレーターの和田誠先生にお願いした。配布資料にはIntegrated Societyと、それぞれに対応する日本の学会を記載した。合同シンポジウムや教育セッションなどを企画していただきたい。横浜でのISDSは大成功を収めたので海外からの期待は大きい。21の後援学会(資料2)があり、国内のParticipating Societyとして協力していただく予定である。若い先生に参加していただくため、ISW2011参加が各学会のクレジットになるように働きかけている。資料3の会場使用計画案を示した。各学会の割り振りは来年のフランクフルトの会で決めることになる。岩手医科大学の若林剛教授にISDSのプログラム委員長としてプログラムの骨子を作っていただく。資料4に参加費案を示した。日本人は4万円(オンラインは5万円)、35歳以下をトレイニーとして、参加費を安く設定したい。資料5に今後の予定を示した。ワックスマン財団を通して募金を集めることになる。ご協力をお願いしたい。

北島政樹元会長：Asian doctorもJapanese doctorと同じ参加費になるか？

片田LOC事務局長：理事会で、Asian doctorも他の海外参加者と同じ参加費とすることが決まった。ISSメンバーかつJapanese doctorは、

Japanese doctorの料金となる。

山川達郎理事：3月18日～21日、フランクフルトで理事会が開催される。ISS/SICは会員数が減少傾向で、会員獲得が大きな問題となっている。このような将来構想やISW2011が主要な議題となる。Japan chapterのメンバーはISDS関係者は多いが、他のIntegrated Societyの委員となっている日本人が少ない。日本の意見が通るようにIntegrated Societyに積極的に関与して欲しい。会員数は米国に次いで2位で、日本抜きでは成り立たない状況である。日本がトップの地位を築けるように宜しくお願いしたい。

北川雄光支部長：ISW2011に向けて多くの先生方にご入会いただいている。

北島政樹元会長：BSIでは日本の発現力が弱い。日本乳癌学会からBSIに積極的に参加して欲しい。

池田正教授：日本乳癌学会の理事長、国際委員会委員長に申し伝える。

高見博教授：BSIは、スウェーデンのKerstin Sandelinが会長で、カリフォルニアのJay K. Harnessが次期会長である。日本乳癌学会は直接コンタクトを取るとよい。

6. 次回日本支部総会：北川雄光支部長

来年4月10日(土)朝7時を予定している。

以上

(文責 和田則仁)

## 逆流性食道炎に

薬価基準収載

### アルロイドG 内用液5% アルロイドG 顆粒溶解用67%

〈アルギン酸ナトリウム製剤〉

効能・効果・用法・用量、使用上の注意等  
につきましては添付文書をご参照ください。



発売元 **Kaigen** 株式会社 **カイゲン**  
大阪市中央区道修町2-5-14  
〔資料請求先 株式会社カイゲン 新薬本部〕  
<http://www.kaigen.co.jp>

製造販売元 **KYOEI** 共成製薬株式会社  
北海道小樽市奥沢1-25-18

**献血ウェノグロブリンIH 5%**

血漿分画製剤(液状・静注用人免疫グロブリン製剤)  
Venoglobulin IH 5% v.0.5g/10mL·1g/20mL  
0.5g/10mL·1g/20mL·2.5g/50mL·5g/100mL  
(生物学的製剤基準 ポリエチレンジコール処理人免疫グロブリン)

※効能・効果、用法・用量、禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元 (資料請求先) **ベネシス**  
株式会社ベネシス  
大阪市中央区北浜2-6-18

販売 **田辺三菱製薬株式会社**  
大阪市中央区北浜2-6-18

VGX-2010年3月作成

**CHUGAI 中外製薬**

Roche ロシュ グループ

### 抗悪性腫瘍剤

劇薬、処方せん医薬品注)

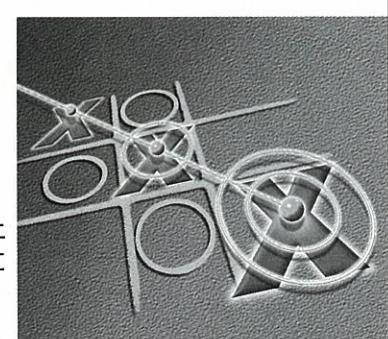
薬価基準収載

### ゼローダ®錠300 Xeloda® 力ペシタビン錠

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること  
⑧F.ホフマン・ラ・ロッシュ社(スイス)登録商標

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関する使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。  
<http://www.chugai-pharm.co.jp>

at the Front Line  
CHUGAI ONCOLOGY



製造販売元 中外製薬株式会社 | 〔資料請求先〕  
〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

2009年9月作成